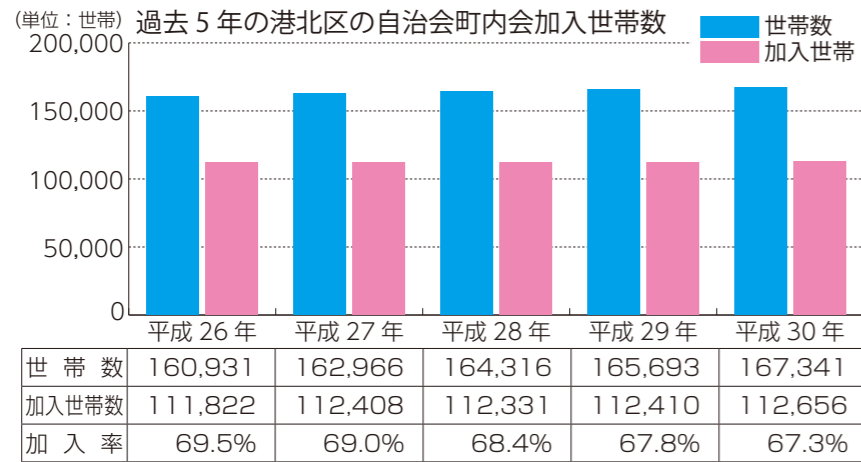


○自治会町内会加入世帯

港北区内の16万7千余世帯のうち約7割の11万2千余世帯が151の自治会町内会に加入しています。
この5年間で6,410世帯が増えましたが、自治会町内会への加入は834世帯の増となっています。
なお、横浜市全体での加入率は73.4%、港北区は67.3%であり、市の平均より6.1ポイント下回っています。



転入者にご案内しています

港北区の地域支援のしくみ

地区担当制

港北区では、平成21年度から「地域と向き合う体制」として、13の地区連合ごとに課長・係長を配置し、地区連合定例会や行事等へ参加し、地域のみなさまとの関係を構築する「地区担当制」を設置し、地域のみなさまと行政をつなぐ窓口となり、地域の課題を解決するための支援を行っています。

ひとつプラン地区計画や災害に強いまちづくりの推進支援を行うとともに、地域の要望や相談をうけ、区役所の所管課へつなぎ、連携して課題解決を図るよう活動しています。

ひとつプラン港北 地区別計画

区役所、社会福祉協議会、地域ケアプラザの職員で構成する「地区別計画推進サポートスタッフ」が区内13地区それぞれの地区別計画の推進を支援しています。サポートスタッフは、地域の福祉保健課題の解決を目指す住民の自主的な活動の支援を行っています。

災害に強いまちづくり支援

・地域防災拠点の運営支援

地区担当者は地域防災拠点の参与として、区内28か所の小中学校の地域防災拠点運営委員会に参加し、在宅避難生活の実現に向けた心構えや準備、長期避難生活の場としてのルールづくりや訓練など避難所運営体制づくりの支援を行っています。

・災害時要援護者支援

平常時の見守り・発災時の安否確認体制を強化するために、自治会町内会ごとの取組状況を丁寧に把握するとともに、地域で行っている具体的な取組を紹介するなどの支援を行っています。

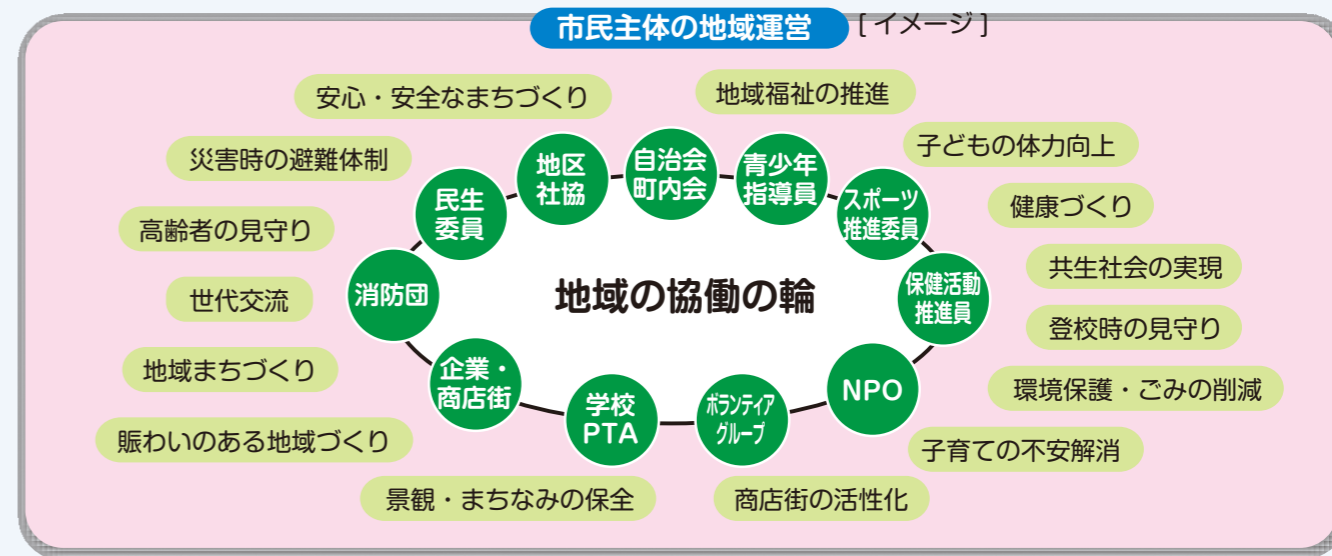


特集 「地域の課題」の解決に向けた取組

横浜市は、横浜市中期4か年計画（2018～2021）を策定し、4年間に重点的に推進すべき38の政策の1つとして「参加と協働による地域自治の支援」を掲げ、引き続き「協働による地域づくり」をすすめていきます。

○横浜の地域の現状と課題

- 各地域では、自治会町内会、地区社会福祉協議会やNPO法人などの団体が多様な活動を行っています。
- ・高齢化の進展などにより、身近な地域の課題がより多様化・複雑化する中、様々な担い手が参加し協働して、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めていくことが求められています。
 - ・地域によっては課題解決のための資金確保や深刻な担い手不足といった課題が生じており、活動の低下が懸念されます。地域で活動する各種団体がお互いの強みをいかし、連携・協力したまちづくりが求められます。
 - ・地域の中で、様々な団体や人々をつながりを持つことは、災害時の共助や見守り、孤立防止などの安心感や、地域への愛着などに結びつくことから、将来にわたってより安心して暮らせるよう、こうしたつながりを広め、継続させていく必要があります。
 - ・今後、さらに地域の協働の輪を広げ、市民主体の地域運営をめざすことが求められています。



○「地域の課題」解決に向けた取組

それぞれの地域では「〇〇をすればより住みやすい地域になる」「〇〇に取り組めば安心・安全な地域になる」など住民自らが話し合いや活動の中で「〇〇」を見つけ、住民が主役となり地域の課題の解決に向けた取組がすすめられています。また、このような取組は身近な自治会町内会を中心として、さまざまな団体等と連携することで、パワーアップした取組となります。

- ➔ 港北区内では6団体が「地域のチカラ応援事業-地域元気づくりコース」の補助を得て取組をすすめています。(P2～7)
- ➔ 港北区は「協働による地域づくり」をさらに進めるために13の連合町内会エリアに各地区の担当職員を配置するなど地域の取組の支援をすすめています。(P8)

「住む街に目を向け、参加をすすめる」ための 緑化・植樹活動とさくらまつり

● 実施主体

平成22年6月「大倉山夢まちづくり実行委員会」（地区連合町内会、地区社会福祉協議会、町内会自治会、商店街、民生児童委員、スポーツ推進委員、青少年指導員、子育て支援拠点、NPO法人等で構成）

● 地域の課題

当地区は流入人口も多く、新しい住民、若い層の地域活動への働きかけが大切です。緑化の取組はそうした新入住民や時間ができた元気なシニアに対し、地域活動の入口となるようにしたいと考えています。

● 取組の方向

大倉山地区の町内会自治会・地区社会福祉協議会・商店街・地域の諸団体が協働で、住民にとって大倉山が魅力のある町、住みよい町、住み続けたい町になるよう取組を行っています。これまで、大倉山記念館周辺の整備や太尾堤緑道や太尾南公園への植樹・緑化の推進に取り組んできました。また、毎年春には太尾南公園で「大倉山さくらまつり」を開催し、住民の皆様が交流する機会の創出や地域の活性化に努めてきました。

● 具体的な取組

① 大倉山さくらまつり

大倉山地区には梅林だけでなく桜も多いことから、太尾南公園を中心に、大倉山地区の全町会・商店街・地域の団体が一体になって模擬店や芸能イベントを催す、「大倉山さくらまつり」を開催し、住民の皆様が交流する絶好の機会を設けています。また、期間中、商店街と協働しスタンプラリーを行うことで、地域をぐるっと回ってもらい、地域を知ってもらう機会の一つとなっており、多くの方に参加してもらうきっかけとなっています。



② 市之坪こどもの遊び場・川崎信用金庫前花壇の整備

太尾小学校の児童や町内子ども会の協力を得て、マリーゴールド・ベコニア・パンジー・クリスマスローズなどのきれいな花の植栽コーナーを設け、一年を通して楽しめる花壇づくりを行いました。



● 今後の取組は？

事務局は「今後は、これまで取り組んできた緑化活動を地域全体に広げるために各町内会の拠点ごとに『コミュニティガーデン』をつくり、歩いていける身近な場所で、土や緑に接し、世話をして楽しむことができる環境づくりを行っていきたいと考えています。」と話す。

「防災から福祉を考える」 ～福祉活動ネットワークの構築～

● 実施主体

平成22年11月「光と活力実行委員会」（地区連合町内会、地区社会福祉協議会、町内会自治会、民生児童委員、スポーツ推進委員、青少年指導員、消防団、子育て支援団体、地域ケアプラザ等で構成）

● 地域の課題

日吉地区は7万人を超える人口があり、エリアも大きいです。そこで、地区を5つにわけ、それぞれに設置した地域ケア委員会ごとに「防災」と「福祉」をテーマにした活動を行っています。

● 取組の方向

災害はいつ起こるかわかりません。来たるべき大地震に備え必要なのは「自助」と「共助」です。自分の命は自分で守るため、食料・水・簡易トイレの備蓄や家族との緊急連絡方法、家屋の耐震化、家具の転倒防止などの「自助」はもちろんのこと、災害が起きた時に地域の皆様が協力して町を守る「共助」が必要です。そのためには、自分たちの住む「まち」を知っておく必要があります。日吉地区では、「防災から福祉を考える」を共通テーマに掲げ、日吉宮前地区・日吉町地区・箕輪地区・下田地区・日吉本町地区の5地区において「防災町あるき」を実施し、援護が必要な方や子ども、障がいをもつ方々などが安全に避難できる経路、急斜面などの危険個所の確認を行い、災害時にはどういった場所が危険か、また避難道路はこれで安全かなど、町あるきをして地図に落とし込んできました。

● 具体的な取組

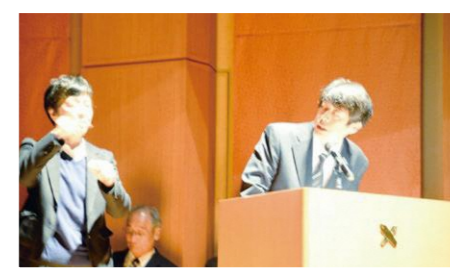
① 「防災町あるき」

日吉地区ではこれまでも、地域ケアプラザや町内会館等を拠点に、高齢者向けの食事会や子育て支援のサロン、障がい児者とのふれ合いなど、様々な助け合い・支えあいの地域社会づくりの活動を行ってきました。28年度からは「防災から福祉を考える」という視点で「町あるき」を行い、今年度も5地区ごとに、「安全な道とAEDについて」「水害に対しての一時避難場所」「防災マップの作成について」「急斜面の防災と避難」「防災から福祉を考える」などをテーマにして、実際に自分たちの住むまちを歩いてみて、現状の把握に努めました。



② 福祉実践活動発表会

1月27日(日)に「防災町あるき」の成果を発表する「福祉実践活動発表会」を慶應義塾大学日吉キャンパス協生館で開催しました。当日は、日吉台西中学校演劇部の皆様による劇を鑑賞した後、5つの地区からの活動発表を行いました。今回で10回目の開催となります。当日は、500席の会場がほぼ満席となりました。町あるきをした結果、判明したことや課題として残ったこと、「まずはこういう取組ができるのではないかと」といった課題提起など、パネルディスカッションも開催し、参加・来場いただいた皆様で課題を共有いたしました。これからのマップ作成・活用について検討していきます。



新羽の未来をつくる会 「明るく美しいまちづくり」の取組

● **実施主体**
平成28年4月「新羽の未来をつくる会」（8つの自治会町内会の役員等で構成）

● **課題**
新羽地区では地域行事、住民相互の交流機会が多く学校との関係も密接です。しかしながら、活動しているメンバーが固定化しつつあり、新たな担い手の参加・参画が課題です。

● **取組の方向**
地域住民の参加型の取組をすすめることで活動の輪を広げていきます。特に、新羽の地区の魅力を確認し、目に見える活動を中心にする事で地域に関心を持ってもらうねらいです。

● **具体的な取組**
新羽地区の魅力をめざして、花植、写真展、学校と連携した交流会などを開催しています。

- **「花植プロジェクト」-新羽地区の魅力づくり-**
新羽駅周辺の高架下でプランターに花を植え、地区の新たな名所づくりをめざします。
また、新羽地域ケアプラザの協力のもと「ガーデニング講座」を開催し、講座修了生が活動にかかわる工夫もしています。
- **「にっぽ写真コンテスト」-新羽の魅力を再発見し、伝える-**
応募者は、新羽に在住・在勤・在学者で、小・中学生の部と高校生・一般の部があります。
応募は口コミで広がってきています。主催者としては、もっと小・中学生に応募してほしい…。



写真コンテスト入賞者のみなさん

● **「新羽中、新羽小学校での交流」をサポート**
「新羽町合同敬老の集い」毎年、新羽中学校体育館で地区に住む70歳以上の方をお招きして開催されています。また、新羽小学校ではこの地区に伝わる「わら蛇づくり」が3年生の体験学習として行われています。このような取組をサポートしています。

● **今後の取組は？**
担当の中村忠夫さんは「新羽には高齢になって住む方もいる。いろいろな行事があるので外へ出てぜひ参加してほしい。住んでいる人が地域の人になってほしい。地域の人とはあいさつがしあえる、顔見知りの関係なんです」と話す。



思いあいのまち樽町の ホームページへようこそ！

(人口約 17,000 人、約 6,200 世帯 9つの自治会・町内会からなるエリア)



● **実施主体**
「ひっとプラン港北樽町地区推進委員会」-「情報グループ」(樽町地区連合町内会、樽町地区社会福祉協議会、樽町地域ケアプラザ、樽町中学校等で構成)でホームページの企画・運営を行っています。

● **地域の課題**
倉庫や工場が新築マンションに代わって、樽町に新たに住まれる若い子育て世代が増えており、地域とのつながりづくりが課題です。

● **取組**
樽町地区では、地域のイベント情報を届ける「樽町イベントカレンダー」を年2回紙の媒体で発行し、ほぼ全世帯と樽町中学校生徒に配布しています。さらに平成28年4月から、地域情報をワンストップでの共有を目指し、特に若い世代に対してスマートフォンなどで簡単に情報を入手・発信できるホームページ作りを併せてすすめています。

【地域情報って?】
地域イベント、特集記事(樽町の歴史や工場など)、子育て(親と子の集いの広場「ひだまり」)、防災(樽町中地域防災拠点)、見守り(民生委員・児童委員の活動)、健康(保健活動推進員)、スポーツ(スポーツ推進委員)、青少年(青少年指導員)、ひっとプラン港北、樽地区社協、樽町連合町内会の項目があり、それぞれの情報を作成・発信しています。

【ホームページは誰が作成し、運営しているの?】
「ひっとプラン港北樽町地区推進委員会-情報グループ」(10人)がホームページ開設の目的の共有の打ち合わせやIT研修などを受講し、ホームページを立ち上げ、イベントやページごとの担当者が作成更新しています。

● **住民の反応**
1日平均30~40件のアクセスがあります。イベント前日、当日には100アクセスを超えます。

● **今後の取組は？**
情報グループの小泉亨さんは「樽町地区のホームページ特集記事づくりに中学校がかかわっているのが特徴。ゆくゆくは中学生が楽しんでホームページの運営にもかかわってくれとうれしい」と話す。



ホームページ トップ



情報グループのみなさん



イベントカレンダー

「子どもが主役になれるまち」 太尾宮前

太尾宮前町会エリア（大倉山地区にある太尾宮前町会を中心に展開）

● 地域の課題

この地区は、マンション等への転入や子育て支援拠点、保育園、幼稚園、放課後児童クラブなどがあり、子育て期の層が集まる状況があります。そのような住民が地域に関心を持ち、住民相互の交流をすすめていくまちづくりが課題です。

● 取組の方向

地域に子どもの出番をつくることで、その家族を含め地域活動への参加・参画をめざしています。

● 具体的な取組

エリア内の地域の民間施設で「子どもが主役になれるまち」をテーマにイベントを年3回開催しました。

「太尾宮前一日文化祭」11月11日（日）ライフ大倉山店・横浜信用金庫駐車場

「新春餅つき大会」1月5日（土）ライフ大倉山店駐車場

「太尾宮前梅まつり」2月16日（土）歓成院 観音会館

イベントは、食べ物の模擬店、体験やゲームコーナー、バザー、ダンスや音楽など盛りだくさん。

■ 特徴 ■

● 月1回の情報交換会の開催

「太尾宮前地域まちづくり運営委員会」（平成24年2月設立）太尾宮前町会、大倉山アソカ幼稚園、わおわお大倉山保育園、たんぼぼ保育園、太尾第二学童保育クラブ、NPO法人びーのびーの 港北区地域子育て支援拠点どろっぽ、アスリエ大倉山店、横浜信用金庫、歓成院、ライフ大倉山店、地元商店 等で構成され月1回、横浜信用金庫の会議室を借りて打ち合わせを開催。最近、太尾小学校、子ども会やボーイスカウトも協力を申し出てきています。

● 児童の体験学習成果の発揮

太尾小学校の児童が作る地元産の梅ジュースや地元の和菓子屋さんから習った「ぎゅうひもち」の作成・販売は児童にとっての実社会での体験学習の場にもなっています。

● 幼児から高校生までが参加・参画

イベントには高校生、中学生がボランティアとして、小学生が模擬店を出店、幼児はダンスなどの発表を行うなど幼児から高校生までがそれぞれの役割を發揮する場となっています。

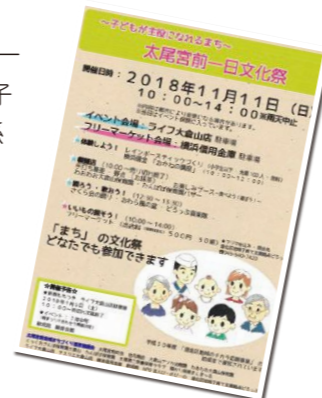
● オープンスタンス

チラシには「まちのおまつりどなたでも参加できます」と町会を超えての呼びかけです。



● 今後の取組は？

運営委員会会長の秋本健一さんは「このイベントは、太尾小学校の児童の参加など、一つの町会のエリアを超えて校区以上のエリアの取組になってきている。地域にもっと子どもたちの活躍の場をつくりたい。そして、イベントをきっかけとして顔の見える関係づくりをしたい。…それが、災害時のイザ！という時の対応につながると確信している。めざすところは『絆・ささえあい』ここなんです」と話す。



「認知症で徘徊する高齢者」の 早期発見・保護する仕組みづくり

● 実施主体

「ひっとプラン港北」さがしてネット推進委員会（地区連合町内会と地区社会福祉協議会で構成）

● 取組の方向

近年、高齢化に伴い認知症が原因で徘徊する高齢者が増えてきています。「ひっとプラン港北」さがしてネット推進委員会では、認知症で徘徊する高齢者を早期に発見・保護する仕組み「徘徊高齢者捜索・保護支援活動ネットワーク」通称「さがしてネット」に取り組んでいます。

新吉田あすなろ連合町内会が始めた取組を新吉田連合町内会エリアまで広げ、それぞれの地区社会福祉協議会と協働しながら、その仕組みを具体化し、認知症に対する理解と認識を深める啓発活動を行っています。

● 具体的な取組

①「さがしてネット」表示プレート掲出の取組

当地区では、地域の方にご協力いただき、認知症の徘徊高齢者を発見・保護した時の連絡先を「拠点」として登録いただいています。地域の方が認知症の徘徊者を発見した時にその拠点に連絡したり、また、地域ケアプラザや警察署に連絡できるよう電話番号を掲載したプレートを作成し、掲示しています。現在は約230件（両地区共）にご協力いただいています。

今年度は区役所の「地域のチカラ応援事業補助金」を活用し、両地区で220枚のプレートを増刷しました。

②認知症高齢者徘徊模擬訓練の実施

毎年3月に、我々が徘徊者役に扮し、模擬的に地域内を徘徊し、地域の方へ「見つけた」「見かけた」「保護した」時の通報や捜索・保護訓練の協力を呼びかける取組をしています。今年は3月13日（水）15:00から実施予定ですので、見かけたら、ぜひ地域ケアプラザへ通報をお願いします。（新吉田地域ケアプラザ：592-2151）

また、「さがしてネット」メール配信登録も協力をお願いします。



「さがしてネット」
メール配信
二次元バーコード

● 今後の取組は？

事務局は「『さがしてネット』のシステムの効果と思われる発見事例もあったと聞いています。

ただ、拠点が偏在しているという指摘や、まだまだPRが足りないという声もあります。今後は、一般市民の皆様にも徘徊者の発見に協力していただけるようPRを強化するとともに、徘徊者情報の発信方法についても考えていきたいと話します。

